

会 議 録

会議名	平成 28 年度第 4 回八王子市博物館協議会	
開催日時	平成 29 年 2 月 23 日(木)午後 6 時 30 分～8 時 30 分	
開催場所	八王子市郷土資料館 集会室	
出席者	委員	小野一之、磯部剛久、小此木正貴、柿崎博孝、数馬広二、鎌倉佐保、 國方則和、黒澤美代子、佐々木幹夫、佐藤栄子（50 音順）
	事務局	叶清こども科学館長、中正由紀郷土資料館長（文化財課長）、森融こども 科学館専門幹兼主査、尾崎光二郷土資料館担当主査、中村善行郷土資料 館担当主査、河津美穂子郷土資料館担当主任、佐藤友紀郷土資料館担当 主事
欠席者	0 名	
議 題	協議事項 1. 平成 28 年度八王子市こども科学館及び郷土資料館事業(4～1 月期)実 施状況について 2. 受益者負担の適正化への対応について 3. その他	
公開・非公開の 別	公開	
傍聴人の数	0 名	
配付資料名	会議次第 平成 28 年度こども科学館事業(4～1 月期)実施状況 平成 28 年度郷土資料館事業(4～1 月期)実施状況 パブリックコメント実施結果について 新郷土資料館についてアンケートのお願い 八王子市の取り組み(受益者負担の適正化)	

	<p>—開会后、特別展示室へ移動し、特別展「掘りおこされた八王子の歴史」について河津郷土資料館担当主任の解説で見学。</p> <p>見学後、会議室へ戻り議題（1）平成28年度八王子市こども科学館及び、郷土資料館事業(4～1月期)実施状況についてこども科学館を森こども科学館専門幹兼主査より説明。続いて郷土資料館について佐藤郷土資料館担当主事より説明。—</p> <p>—質疑応答—</p> <p>小此木委員 郷土資料館の入館者数の中で団体入館数が減少しておりますが、その理由を教えてください。</p> <p>尾崎主査 今回の報告では1月までの集計ということですが、例年学校の社会科見学の利用は2月が一番多い時期となっております。しかし今年度は例年に比べ若干申し込みが少ないです。理由の一つとして、小学校が団体見学の申し込みをする際には午前の希望が多く、既に他の学校の予約が入っている場合にはお断りをしている状況が挙げられます。学校側もある程度予定を組んでから申し込みをする場合があり、見学日程の変更が出来ずに見学を中止にする学校も多く、例年社会科見学に来ていた学校も申し込みが遅れ予定が合わずに断念するというケースも見られました。そのため団体数は減少しておりますが申し込み自体が極端に減少しているということではありません。</p> <p>黒澤委員 こども科学館の入館者と観覧者との表記がありますがこれらの違いについて教えてください。</p> <p>叶館長 入館者は有料で入館した方、観覧者は入館後にプラネタリウムを観覧した方を表しております。観覧者は入館券と観覧券の両方を購入していただいた方となります。</p> <p>黒澤委員 つまり入館者数と観覧者数は重なる部分もあるということですね。</p> <p>叶館長 はい。そうなります。</p> <p>黒澤委員 郷土資料館の1月の入館者について、大きく増加しておりますが、これに寄与した企画展「七福神」の企画は今後も今回と同様の入館者数を維持することが出来るのでしょうか。</p> <p>尾崎主査 この企画については現在継続の方向で進めていきたいと考えております。今回は1月4～9日までの集計のみで約950人、1日平均150人の入館がありました。今回は信松院で開催された「七福神めぐり」期間中に寺所有の文化財を公開するイベ</p>
--	---

ントが開催され、そこに資料館のガイドボランティアが解説を行うと共に企画展のチラシ配布に赴くなど、周知活動に力を入れたことが入館者増につながったと思われます。同期間で昨年と比べましても1日当たり50人ほど入館者が増えております。そのほかには1月9日には正月遊びの体験学習を開催しており、屋外で羽根つきなどの正月遊びを実施する様子を、通りがかりの人が興味を持ち、来館したことが増加要因と思われます。

黒澤委員　つまりボランティアによる宣伝効果はあったということですね。

尾崎主査　そうなります。

—中村郷土資料館担当主査より。事業実施状況の補足として寄附資料、購入資料、研究成果、刊行物の発行について説明—

黒澤委員　購入資料について、どのような基準に基づき購入を行っているのでしょうか。

河津主任　購入資料の購入先の多くは古書店からになります。古書店から定期的に目録が送付されることや、直接八王子に関する資料についての販売情報の連絡が来こともあります。購入基準は当館で所有がなく、借用となっている資料や今年度・次年度で計画している特別展や企画展で利用可能な資料を基準として、担当学芸員と相談の上、購入手続きをしております。

黒澤委員　わかりました。

磯部委員　調査・研究について、郷土資料館の紀要に掲載するだけではなく、学芸員が研究した成果などを外部、学会や研究誌に投稿するといった取り組みも行っているのでしょうか。

河津主任　基本的には資料館だよりや研究紀要での発表が主になりますが、これらの図書は各市町村の博物館にも配付されており、それを見た学会等の団体から各学芸員に論文執筆や講師依頼の相談が来る場合があります。

磯部委員　わかりました。

國方委員　主に学校の団体受け入れに対し、お断りしている場合があるということですが、生徒が資料館に行くという貴重な機会ですので、お断りするというケースをどうにか回避できない

	<p>か事前調整するなどの解決策はないのでしょうか。</p>
尾崎主査	<p>過去に午前中に時間をずらして小学校を2校受け入れしたことがあるのですが、小学生ということもあり、学校側も統率がとれずに現場が混乱してしまった事例がございます。そのため今後は利用日が重ならないように学校側との事前調整の方法を検討していかなければならないと考えております。</p>
國方委員	<p>生徒たちにとって資料館に訪れるということは非常に有意義なものですので、ぜひご検討ください。</p>
柿崎会長	<p>団体入館の学校以外、大人の団体についてはどのような団体が利用されるのですか。</p>
河津主任	<p>周辺博物館からのガイドボランティア研修会やクラブツーリズムといった民間の観光会社からの団体、各地域の歩こう会、老人ホームなどの団体からの利用があります。</p>
柿崎会長	<p>わかりました。</p>
小野委員	<p>こども科学館のリニューアル後の入館者について意見いたしますが、今後入館者増が見込めるねらい目の分野といたしましては高齢者と外国人の分野だと思えます。高齢者につきましては、科学好きの大人・高齢者、プラネタリウムにノスタルジィを持つ世代がちょうど団塊の世代だと思えますので、その世代をどうにかして取り込めないかと思えます。これまでの入館者のデータを見ますと割合として大人3、子供2の割合で変わらず推移していることがわかります。おそらくこの割合はいわゆる親子で来館した際の家族構成とつながると思えますので、今後大人やシニア層を呼び込める余地があるかと思えます。外国人につきましては現在オリンピックに備えて国から補助金を利用できる場合もございますので、これを機会に外国人の取り込みというのも考えても良いのではないかと思います。また現在、外国人がどの程度来館しているのか数値等データがあれば教えてください。</p>
叶館長	<p>客層につきましては、4月に郷土資料館と実施した隕石に関する企画展で両館共に今までとは異なる客層を取り込めたことが印象に残っております。大人も楽しめる生涯学習施設ということも考えておりますので、今回のリニューアルを契機にニーズを踏まえた特別展示も含め、今までと違った客層も取り込んでいきたいと考えております。外国人の利用につきましては日本に居住し、配偶者と一緒に来館するといったケ</p>

	<p>ースが見受けられ、ある程度日本語ができる方が来館しているように思いますが、今後東京オリンピック開催に伴い、旅行者などの外国人が増えていく際にどのような対応ができるか、ホスピタリティも含め考えていかなければいけないと考えております。人数につきましては現状では把握しておりません。</p>
小野委員	<p>外国人来館者は都心に行くほど割合が高くなる傾向にあるようです。八王子については観光地も多いので今後の増加は見込めると思います。</p>
河津主任	<p>資料館の方も外国人入館者は正確には把握しておりません。しかし資料館では車人形の体験ができるということで、それを目的に来館される方もおります。</p>
柿崎会長	<p>外国人に関してはこれからの課題として考えていただければと思います。</p>
佐藤委員	<p>先日青森県十和田市の開拓史について、開拓史を小学生向けに編集する事業に関わる機会がありました。その事業の中心人物が探査機はやぶさのチームリーダーの弟さんであるということでした。たとえ八王子に直接関係がない事柄でも、こういったつながりから講師を呼び、八王子で天体に関する講座を開くなど、広い視野で交流・コラボレーションの可能性を持つことが出来れば良いと思います。</p>
叶館長	<p>必ずしも八王子に関係がなければいけないというわけではなく、話題性がある事柄や、時勢にかなった事柄に関して連携する可能性はあります。またこれがきっかけとなり、相互に交流などが始まれば尚良いことだと思います。こども科学館ではJAXAと教育に関する協定なども結んでおりますので、それらを足掛かりにして共催していくのも良いのかと思います。</p>
佐藤委員	<p>よろしく願いいたします。</p>
國方委員	<p>他とのコラボレーションの一環で市内の観光地と協力して観光者に向けた周遊ルートマップを作成するなどの取り組みを行ってみるのも良いと思います。</p>
佐藤委員	<p>例えば全く違う分野とのコラボレーションもあらたな客層を取り込む手法として有効だと思います。</p>
鎌倉委員	<p>今の意見に関連して、最近では平日の仕事終わりや天気の良い日に地域を歩く人々がとても増えています。そのような</p>

	<p>方に向けたルートマップがあれば良いと私も思います。また今回の報告で歴史相談件数の報告がされていますが、歴史相談についてどのような形で相談がなされているのか教えてください。</p> <p>尾崎主査 歴史相談については資料館の事務室横にある閲覧コーナーで相談を受けた数について計上しております。そのため電話で受けた歴史相談などは数に入っておりません。相談は事前に電話で相談に来る日を連絡する方や、館内を見学後に直接相談に来る方もおります。多くの場合は八王子城関係、千人同心の質問が中心で、考古関係に関しては調査報告書を閲覧する方が多いです。相談時間については短ければ10分程度で終わるものもあれば半日から1日じっくりと調べる方もおりますので、1件当たりの相談時間は一定しておりません。場合によっては学芸員が相談者に付きっきりで相談を受ける場合もありますので、歴史相談については今後新博物館を考えるにあたって、サービス内容を明確にしていく必要があるかと思えます。</p> <p>河津主任 電話での歴史相談につきましては歴史相談の性質上、電話のみでは説明が難しい内容が多いため、電話で歴史相談をする方にはできる限り直接来館してご相談いただくよう案内しております。</p> <p>数馬委員 両館ともさまざまな企画を実施するにあたり、どのようなメディアを使って外部へ宣伝しているのでしょうか。</p> <p>叶館長 こども科学館では市内の小学校に毎月チラシを送付して直接周知しています。実際の来館者もチラシを見て来館したという意見が多くあります。その数は広報を見て来館する方よりも多いです。他にはホームページの中で周知するという方法も行っておりますが、チラシが最も効果が高いです。チラシについては全生徒に配付しております。</p> <p>数馬委員 わかりました。</p> <p>尾崎主査 資料館では特別展・企画展についてはポスター・チラシを関係団体や博物館、小・中学校に送付しております。また報道機関にも開催情報を投げ込みという形で周知しています。</p> <p>数馬委員 わかりました。小・中学校だけでなく大学や高校にも周知を広げていただければと思います。もう一つ、先ほどルートマップの話が出ましたが、例えば遺跡に訪れた際にVR</p>
--	--

	<p>を使った映像が流れるなどの工夫をこども科学館と資料館で行う、または大学とコラボして企画するといったことも今後実現可能か否か予算等含めて検討していただければと思います。</p>
叶館長	<p>VRにつきましては現在滝山城跡で観光課が窓口となりVR映像を現場に取り入れております。しかしVRには数百万単位の予算がかかる点や、生涯学習の分野では補助金等がつきにくい点から見送らざるを得ないのが現状です。VRは一つの手法として考えておりますので、何らかの形で親しみやすいきっかけづくりを考えていきたいと考えております。</p>
数馬委員	<p>よろしくお願いいたします。</p>
礒部委員	<p>団体の受け入れについてですが、新宿区では教育委員会が主導して美術館と打ち合わせをしながら美術鑑賞に関する行程を年間でスケジュールを組むという取り組みをしており、4月から2月の間に区内全ての小学校が見学に来るようになっております。ですから八王子でもそのような調整を行えば全校が郷土資料館に訪れるような体制を作ることが出来ると思うのですがいかがでしょうか。</p>
佐々木委員	<p>その点は私から。郷土資料館に訪れる小学校は主に3年生が昔の暮らし・道具という単元の学習で資料館を訪れるのですが、カリキュラムとして3学期の2月が学習の中心となります。また見学日として設定できる曜日にも制限があり、その結果、見学できる日程が極端に限られてしまうということになってしまいます。更に行き帰りの時間と見学時間を加味しますと、午前中の利用希望が集中することになります。</p>
礒部委員	<p>行き帰りについては徒歩なのですか。</p>
佐々木委員	<p>学校によって異なります。</p>
礒部委員	<p>例として新宿区の場合は教育委員会が各学校へのバスの予算を取って対応しております。</p>
叶館長	<p>こども科学館はバスの予算を取り、学校への手配を行っております。</p>
佐々木委員	<p>学校は希望日以外の日程には学校行事が入ることが多く、希望日を逃してしまうとその年度の見学は諦めざるを得ないといった状況が多くみられます。</p>
尾崎主査	<p>八王子は広いのでバスが出せないと徒歩で行くのが厳しい</p>

	<p>のですが、そのような学校は学校周辺の絹の道資料館や東京都の埋蔵文化財センターを利用するなどしており、全く歴史施設を利用できない状態というわけではないと思っております。</p> <p>柿崎会長 中学生についてはバスを利用しているようですが。</p> <p>河津主任 中学生は本庁舎など施設見学が主で、資料館は社会科見学の趣旨とは異なってしまいうため利用がありません。また総合学習の授業で地域の歴史を調べるために利用することはありますが、自分たちの地域の歴史を調べるという内容から、利用する中学校も資料館の周辺に限られています。</p> <p>柿崎会長 ありがとうございます。他にもご意見があると思いますが時間の都合上、つぎに議題に移らせていただきます。</p> <p>—議題(2)受益者負担の適正化への対応について、叶こども科学館長より説明—</p> <p>小此木委員 運営形態はこれまで通り直営方式を採るとのことですね。</p> <p>叶館長 直営方式を考えております。</p> <p>小此木委員 直営方式のメリット・デメリットを教えてください。</p> <p>叶館長 本市の場合、プラネタリウムで上映する学習番組について、学校教育の観点から学校と連携し、理科の学習指導要領に沿った独自の番組の作成をしております。これが直営の場合の強みであり、指定管理等になった場合、この水準を維持できるのが判断基準になるかと考えております。</p> <p>小此木委員 府中郷土の森博物館や江戸東京博物館など指定管理者制度を導入し、問題なく運営できている事例もあるのでコスト面を意識するのであれば、直営でない方が良いというのはこれらの事例からもでてきます。直営にするのであれば他の博物館・美術館の運営方式について比較した上で、直営にする理由を示すべきだと思います。</p> <p>叶館長 ご指摘のとおりだと思います。今回の科学館のリニューアルに関しては、今後様々なメリット・デメリットを踏まえ運営形態の変更を検討する可能性はあるかと思いますが、現時点では運営については直営の強みを活かすという方向で進めております。</p>
--	--

	<p>小野委員 受益者負担の考え方というのは一般的に行政内市民を対象としております。しかしプールやプラネタリウム等の施設は行政外市民も多く利用する施設ですので、通常の受益者負担の考えがそのまま適用できるのかよく考える必要があります。例えば行政内市民と行政外市民との利用料金に違いを設けるなど考えていくことが必要と思われまます。</p> <p>叶館長 利用料金に関しては市内・市外で区別しておりませんので、利用する際の市民であることのメリットに関して、ご指摘の通り考えていかなければならないと思います。</p> <p>柿崎会長 他になければ次の議題に移らせていただきます。</p> <p>—議題(3)その他について、尾崎郷土資料館担当主査よりパブリックコメントの実施結果およびアンケートの実施について説明。叶こども科学館長より大横町公園の整備について報告。中村郷土資料館担当主査より郷土誌フェアの実施結果について報告および次回の開催日程について通知—</p> <p>柿崎会長 ありがとうございます。何か意見のある方はいらっしゃいますか。</p> <p>國方委員 先日 J A X A にて宇宙教育シンポジウムが開催され、その中でこども科学館と連携事業についてのポスター展示をしていただきました。私たちと八王子市の活動について全国に発信できたかと思しますので報告させていただきます。</p> <p>柿崎会長 ありがとうございます。それではこれで第4回八王子市博物館協議会を閉会させていただきます。</p>
--	--